

バレ部栗田(仮名)と行く東北旅行



執筆

中3 町田大樹

0章 あの時の願望を

2010年の暮れ、私はバレ部の栗田君(仮名)、ダーツ部のT-Y-O君(仮名)と新潟・信州へ旅行に行った。その時、私達は寝台特急「あけぼの」のゴロンとシート(「あけぼの」の中で一番安い寝台であり、人気があるので予約が取りづらい。)に乗る予定だった。奇跡的にも予約はとれたが、当日は大雪で運休となり、乗車はできなかった。あの時、非常に悔しかった。「予約はとれたのに・・・よりによって大雪なんて！」そこで、今夏にそのリベンジも兼ねて、東北に旅行することにしたのだ。

1章 1日目・普通列車で秋田まで

上野 07:58 → (宇都宮線 快速ラビット 宇都宮行き) → 宇都宮 09:27

宇都宮 09:34 → (宇都宮線 普通 黒磯行き) → 黒磯 10:25

黒磯 10:33 → (東北本線 普通 郡山行き) → 郡山 11:37

郡山 11:56 → (〃 普通 福島行き) 福島 12:43

福島 12:54 → (奥羽本線 普通 米沢行き) → 米沢 13:40

米沢 13:49 → (〃 普通 山形行き) → かみのやま温泉 14:21

かみのやま温泉 15:24 → (〃 普通 山形行き) → 山形 15:37

山形 15:41 → (〃 普通 新庄行き) → 新庄 16:58

新庄 17:10 → (〃 普通 秋田行き) → 秋田 19:59

07時40分、私は上野駅8番線に降り立った。

無事に栗田とも会えた。

ここから秋田に、18きっぷのみで向かう。(18きっぷ1回分で、JR全線の普通・快速列車が1日中乗り放題。

普通・快速の指定席車両に乗る場合、別途指定席券が必要)



宇都宮まで、快速ラビットに乗車する。

07時58分、ベルが鳴り、客終合図のブザーが鳴るとドアが閉まり、発車。いよいよ旅のスタートだ！

粟田は、「迷い猫オーバーラン」というライトノベルを読んでいて、イラスト担当者の変更に伴い、キャラクターのイラストが変わってしまったそうで、がっかりしていた。この人はアニオタだなあ・・・というか鉄道マニアってほしいアニオタなんだよね～。



尾久には、京浜東北線を走っていた 209 系が止まっていた。こんなところで見れるとは意

外だ。この車両はまもなく房総地区用の 209 系に改造され、房総地区の 113 系を置き換えると思われる。

東大宮を過ぎると、列車は 120 km/h 近くで爆走することもあった。風景も次第に田舎らしくなってきた。東京から 40 分程度のところでも結構のどかである。

宇都宮に着くと、突然餃子が食べたくなった。が、ホーム上に餃子は売ってなかった。山盛りご飯と、食べるラー油を掛けた餃子・・・ああ～～この組み合わせを連想するだけでよだれが垂れる！



宇都宮から黒磯行きに乗車。宇都宮を過ぎたあたりから完全な田舎になる。

矢板では、「すみれの花咲くころ」という、昔は宇都宮線の多くの駅で使われていた発車メロディーが使われています。

今では白岡、矢板、那須塩原と八高線の箱根ヶ崎でしか使われていないはず。他に使用駅はあったらどうか？

フルコーラスを聞きたかったが、3秒ほどしか鳴らなかった。残念↓・・・

ただ、駅周辺は栄えていて、乗降客数もやや多めだったので、ラッシュ時に通ればフルコーラスを聞けるかもしれない。



黒磯には E F 65 と桃太郎が連結した状態で止まっていた。



黒磯からは E 721 系の郡山行きに乗り換え。(写真は郡山にて撮影)



黒磯を過ぎると、車窓には那須の山々が見えるよ

うになる。キレイだな～。



郡山に到着。郡山から見える留置線には、キハ48のトロッコ列車「びゅ

うコースター風っこ」が止まっていた。(なお、この写真は昨年12月に福島駅で撮影)

郡山駅では20分ほど時間があつたので、昼食を買うことに。ホームに売店がないか歩いていると、**冷凍食品の自動販売機**を発見。しかも、自販機が解凍までしてくれる。すごい自販機だな！私は、そこで売っていた焼きおにぎりを買った。

ここから乗る福島行きもE721系だった。郡山・福島間は特に書くことはないな。



福島からは、ひたすら奥羽本線を下る。まずは719系の米沢行きに

乗る。719系は、ブレーキ解除の音が電気機関車とそっくり。



福島・米沢間は、普通列車の本数が極端に少ない。一方、新幹線「つ

ばさ」の本数は多い。



福島を出発し、庭坂を過ぎると、峠越えが始まる。

板谷峠という峠で、30~40%の登り/下り勾配が長い間続いたため、昔は補助機関車を連結していましたが、今は技術が向上し、補助機関車の連結はなくなりました。



峠越えの途中、板谷、峠、大沢の3駅を通ります。この3

駅のホームはスノーシェルターの中にあります。昔はこの3駅でスイッチバックが行われていて、スイッチバック用のポイント、信号ケーブル等を雪から守るためにスノーシェルターが設置されました。その後スイッチバックが廃止となり、スノーシェルターの中に新たにホームが設置され、現在に至っています。

峠越えが終わると、まもなく米沢に着いた。



米沢駅からは701系でかみのやま温泉まで乗車。走行音が209系と似ている車両だ。

この701系は未更新車（GTO車）だった。

列車は110km/h近くで爆走していた。列車の爆走はたままないね〜。

JRの運転士さんは歓呼をしない方が多いが、この運転士さんは珍しく行っていた。



かみのやま温泉で下車し、二日町浴場へ行った。

この浴場は、100円を払うと湯に入ることができ、さらに150円払うと体を洗うことができるという不思議なシステムになっていた。湯に入ろうとすると、

あっちい〜〜〜・・・やけどするジャマイカ！！！！

ものすごい温度が高かった。手足がしびれてきた。地元のおじさんは私が熱がっているのを見て笑っていた。

おじさん：「熱いか？ いったんお湯を体にかけてもいいよ。ほいつ。(お湯をかけた)」

私は 100 円しか払わなかったので、湯に入っただけだった。

再び奥羽本線に乗車。山形行き（719 系）に乗車し、山形から新庄行き（701 系 G T O 車）に乗り換えた。



山形には、青色のキハ 100（キハ 110？）が止まっていた。

新庄行きは、学校の終わる時間と重なったのか、混雑していた。（ちなみに、この日は 8 月 26 日。東北地方では夏休みが短いため、8 月の終わりから 2 学期が始まる。）

新庄行きの運転士さんも珍しく歓呼を行っていた。



新庄に到着。

奥羽本線は、新庄駅を境に線路の幅が異なっています。福島・新庄間は、山形新幹線と同じ線路を使うため、新幹線の線路幅にあわせています。（ちなみに、田沢湖線も同様に秋田新幹線と同じ線路を使うため、新幹線の線路幅にあわせています）新庄・秋田間は、J R 在来線の標準の線路幅になっています。



山形新幹線の E 3 系



新庄から秋田行きに乗車



山の中を走行

私と栗田は、「なめているとキャラメル味から、リンゴ・レモン・いちご・ぶどう味のうちどれか1つに変化する」という不思議なキャンディーを食べた。

栗田はぶどう味だったが、私のはいつまでたってもキャラメル味から変わらなかった。

あれ？おかしいな・・・人によっては味の変化を感じとりづらいのかな？

そこで、そのキャンディーの袋をよく見ると、「**ごく稀にミルク味がでてくる**」と書いてあった。ああ、これだったのか。キャラメルもミルクも原材料は同じだから味の変化がないように感じたのだろう。

てか、さりげなく運がいいな！

私は、横手駅の発車メロディーを聞いたかった。赤羽や大森で使用されている「高原」の横手駅オリジナルバージョンが使われているのだ。

しかし、横手駅到着後、このような車内アナウンスが流れる。

「この列車は、秋田行きワンマンカーです」

え・・・横手からもワンマンなの？え~~~~~なんだよ~~~~↓

ワンマン列車発車時は発車メロディーを扱わないので、「高原」を聞くことができない！

あるサイトには横手・秋田間はほとんどの列車が車掌乗務ありと書いてあったのだが・・・

10月1日から当駅の発車メロディーが変わるそうなので、もう一生聞けないだろうとその時は思っていた。

大曲を過ぎると秋田新幹線の隣を走るようになる。この区間は新幹線と奥羽本線の線路がわかれているので、前述の福島・新庄間のようなことにはならない。

なんだかんで秋田に到着。その後は「てのじ」という郷土料理屋できりたんぼ鍋を食べて、ホテルに移動した。

写真はないが、きりたんぼ鍋はおいしかった。醤油ベースのダシが最高だった。この店はおススメです。

今日のホテルは「ホテルパールシティ竿灯大通り」。

今回はツインに泊まった。

その日は金曜ロードショーで「エヴァンゲリオン」が放送されていて、栗田はテレビくぎづけになっていた。やっぱり栗田はアニオタだ！

一方の私は、涼宮ハルヒのキャラソンを聞いていた。

読者：「お前もアニオタか？」

え、いや、私はアニメは好きだけど、栗田みたいにオタクじゃないんだからね！！栗田は20作品くらい知っているらしいけ

ど、私は5作品しか知らないんだからね！！**私はオタクなんかじゃないもん！！**

栗田と明日の天気とかについて話した後、寝ることにした。

2章 2日目・リゾートしらかみと函館山

秋田 08:24 → (快速リゾートしらかみ 1号青森行き) → あきた白神 10:02

あきた白神 12:39 → (〃 3号弘前行き) → 弘前 15:55

弘前 16:05 → (奥羽本線 普通 青森行き) → 青森 16:55

青森 18:04 → (津軽線 普通 蟹田行き) → 蟹田 18:54

蟹田 19:20 → (特急スーパー白鳥 31号函館行き) → 木古内 20:09

木古内 20:17 → (江差線 普通 函館行き) → 函館 21:16

朝 06:00 にモーニングコールをセットし、無事に起きることができた。

モーニングコールがきて、受話器を受け取ったのは覚えているが、なんと言われたのかは記憶にない。

朝食はコンビニで買った「朝バナナ」(ウイダーのようなもの)とした。

秋田からはリゾートしらかみに乗車。

この日は、1号・4号がハイブリッド車、3号・6号がブナ編成、5号・2号がくまげら編成だった。



1号 (ハイブリッド車) に乗車。

ハイブリッド車は、エンジンで発電機を回し、一度バッテリーに蓄え、その電力でモーターを回すことによって車両を走らせるという仕組みになっています。モーターがあるため、電車 (ここでは、電気で走る車両 という意味) のような音がします。(常磐線のE531のような音でした)

エンジンは、基本的に時速 25 km/h 以下では止まっています。

リゾートしらかみ用の車両の先頭車の先頭部分には、展望スペースがあり、前面展望が楽しめます。

ハイブリッド車の場合、運転席にカメラがあり、車内にあるモニターからも前面展望を楽しめます



モニターからの前面展望



秋田駅には、緑色のキハ40が止まっていた。

08時24分、E531のような音を立てながら出発。

「春の歌」の車内チャイムが流れると、自動放送が始まる。

JR東日本の特急ではよく聞く、堺正幸（堺正章ではない）さんの声だった。

この列車の車内チャイムは基本的に「春の歌」で、稀に「しらかみ用チャイム」が流れる。



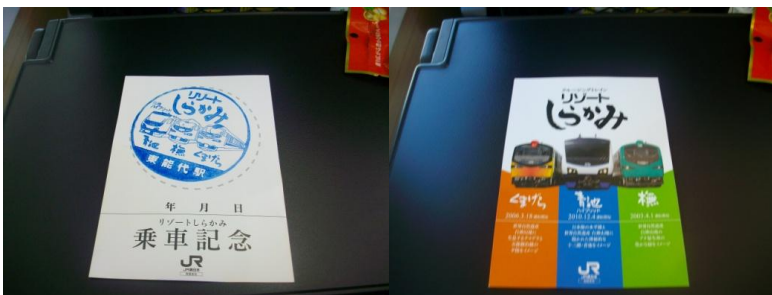
東能代付近では、蓮の池が見られた。



東能代では5分停車。くまげら編成をモチーフにした待合室と、キロポストがあった。



緑のキハ40と青のキハ40がいた。



東能代では、乗車記念スタンプを押せた。



能代では5分停車。能代はバスケットボールで有名な町で、リゾートしらか

み1号・3号到着時にはなんとホームで**フリースロー大会**が実施されるのだ。



私も栗田もシュートできませんでした・・・

ちなみに、私は鉄研に入る前、バスケット部にいました。すぐにやめちゃったけど。



私は乗らなかったが、ボックスシートもあった。(指定席券のみで乗

れる)



日本海が見え始めた！！



あきた白神で下車



駅舎



駅に隣接するハタハタ館へGO！

ハタハタ館は観光施設で、パン作りやブナの押し葉作りなどの体験ができ、温泉と宿泊施設もあります。また、白神山地のトレッキングツアーも行われています。

本当は海岸の近くを歩くか白神山地を登るかのどちらかにする予定だったが、駅から遠いからやめることにした。というわけで、温泉に入ることにした。

粟田が脱ぐのが遅かったので、私が先に入ることにした。

温泉に入ると、

日本海が目の前に！キレイだなあ〜〜夕方だと夕日が見えてより美しいだろうなあ〜

本当に美しかったが、温泉だから写真はとれなかった。

そういえば、粟田がなかなか来ない。遅いな。

更衣室を見にいたところ、粟田はいなかった。まさか、誘拐か！？

西○京太郎サスペンス ～ハタハタ館 粟田誘拐事件～

※意味のわからない方は係員にお尋ねください

なお、粟田は誘拐されてはなく、トイレに入っていただけでした。(苦笑)

温泉に入った後は、休憩所でのんびり過ごした。

「あきたこまち」を使用した米粉パンが売っていたので、買って食べた。もっちりとして甘みが強かった。



リゾートしらかみ3号（ブナ編成）に乗車（写真は五所川原にて撮影）

車内設備は1号とほぼ同レベルで、快適だった。あえて欠点を言うなら、モニターによる前面展望の中継がなかったことだ。

1号もだが、8月の終わりで時期外れだったためか、リゾートしらかみは空いていた。（ボックスはほぼ満席だったが）

～五能線の車窓から～





リゾートしらかみの車両は窓が大きいから眺めがいい！

白神山地の影が見える



ウェスパ椿山駅（ウェスパ椿山という観光施設が隣接）



赤い岩

比内地鶏弁当

一部のトンネル内では、このようなライトが光る

千畳敷では、列車が 15 分止まり、近くにある千畳敷海岸の散歩ができる。

この海岸は隆起によりできた海岸であるがゆえに、岩がところどころあるので歩く際には注意が必要。



千畳敷駅

千座敷海岸隆起生誕 200 周年記念碑
(太宰治 作の「津軽」の一部
が書かれている)

空は晴れ、海は美しい



(前ページの1番下の中央) 隆起によりできた岩

(前ページの1番右下) 砂



先端のほうまで行った

海水

発車3分前になり、発車合図(リゾートしらかみの警笛)が響き渡る。

先端のほうまで来てしまったので、急ぎ足で車内に戻った。



白神山地が奥のほうに見える



2・3号車には運転台があった



(隣の駅が) 陸奥赤石

陸奥森田

(高輪の中3にしか意味はわからないであろう)

鯨ヶ沢・五所川原間では、先頭車の展望スペースにて津軽三味線の生演奏が行われた。

演奏者は2人いた。



私は三味線の演奏は初めて聞くので、残念ながら曲に対する感想は持てなかった。

でも、雑音と揺れのある車内の中で息ぴったりで演奏するというのはすごいと思った。

この付近になると、ところどころでリンゴの農園が見えてくる。



津軽鉄道（五所川原にて）

津軽鉄道の五所川原付近には、昔ながらの腕木信号機があった。（写真はないが）

五所川原では、リゾートしらかみ4号とすれ違った。



弘前に到着

リゾートしらかみからの景色は本当にきれいだった。青い日本海、白神山地、田舎の風景、リンゴ農園、蓮の池・窓が大きいのは非常によかった。しかも座席の間隔が広く、足を伸ばせたため快適だった。

車内や駅でのイベントも楽しむことができました。（ちなみに、フリースロー大会は1・3号のみ。千座敷での長時間停車は3号のみ、津軽三味線演奏は1・2・3号のみ。この他に、1・3号は能代駅で木工パズル体験、土・休日の3・4号では津軽弁語り部体験があります。）



トンネルからE5系が出てきました！ 小さな子が車窓を眺めています 運転士さんがスタッフ(?)を見
ています



おや、屋根がありません！！これは大事件です！！

（写真は全て弘前駅の改札前にて撮影） そうなんです。これはE5系の模型なのです。決して

大事件ではない(笑)



弘前からは青森行きに乗車

701 系の更新車（ I G B T 車）だった。（走行音は、房総地区の 209 系と同じ）

粟田：「209 系や 701 系や E 217 系といえば G T O 車だ。 I G B T 車はイヤだ！」

最近の J R 東日本は、走行音がどの車両もそっくり（ E 233 系・ E 531 系・ E 259 系・ E 217 I G B T 車など）であることが嫌であるらしく、粟田はよくこんな風に愚痴をこぼしている。

たしかに私もそう思う。最近の車両はどれも同じでつまらない。 J R 東日本に限った話ではない。相模鉄道では 9000 系までは相鉄独自のブレーキや駆動方式を採用していたが、10000 系は J R の E 231 系 500 番台と区別がつかないくらいにそっくりになってしまった。 J R 東海でも 313 系と、それと外装がよく似たキハ 25 をあらゆる地域に投入して、一気に 4 形式（117 系、119 系、113 系、キハ 40）を追い出している。

新型車両の投入は否定しないが、もう少しバリエーションを豊かにしてほしいと思う。とはいいい、この不況だからそんなことに金を費やせないというのが鉄道会社側の言い分なのだろうか。

以上、私と粟田のグチでした。

途中、特急の通過待ちがあった。



485 系の「つがる」

スマホで発車メロディーに関する掲示板を見ていたところ、目を疑うような情報がそこに書いてあった。

「青森駅 1・2 番線の発車メロディーが、横手駅の「高原」になった。」

.....マジか？.....

うお—————奇跡だ—————

まさかこんなことが起こるとは思ってもいなかった。本当に奇跡だった。

青森駅では時間があったので、撮影することにした。



青森に到着



青い森鉄道 701 系



キハ 40



リゾートあすなろ下北



2 番線からの発車で、ついに「高原」を聞くことができました。いやーあの時はうれしかった～。

ふと気付いたのだが、この駅では、発車メロディーが鳴り終わるのが発車の 30～40 秒も前なのだ。東京とはだいぶ異なる。



私達は明日、ここに記されている「あけぼの」に乗る。

青森からは津軽線・津軽海峡線・江差線で函館へ向かう。

蟹田までは 701 系に乗ったが、特に書くことはない。



蟹田に到着



キハ 40 の三厩行き

ここからは特急「スーパー白鳥」で青函津軽海峡を渡る（というよりはくぐる?）

なお、蟹田・木古内間は、青春 18 きっぷだけで特急に乗れるという特例があります。なぜなら、この区間には

普通列車が 1 本もないからです。なお、蟹田・木古内間をまたいで乗車する場合には、特例の対象とならない
のでご注意ください。

(例 1) 木古内から蟹田まで特急に乗車→特例の対象

(例 2) 蟹田から知内まで〃→特例の対象

(例 3) 五稜郭から蟹田まで〃→対象とならない。五稜郭・蟹田間の特急料金、運賃が必要。

「スーパー白鳥」に使われる 789 系は、登場から 8 年近く経っているのにも関わらず、未だに新型車両独特の
においがした。

夜だから景色が全く見えない。青函トンネルに入ったかどうかは、電光掲示板を見ないとわからなかった。

その上竜飛海底や吉岡海底を通過する列車だったので、特に写真はとれなかった。



ああ、北海道に来たんだな・・・

木古内からはキハ 40 の函館行きに乗車

私はキハ 40 が気動車の中では 1 番好きである。

国鉄型車両のにおい、エンジン音、性能の悪さ、キハ 58 よりはいい乗り心地 (キハ 58 ファンには申し訳な
い)・・・

JR 東日本のキハ 40 にも乗りたかったが、今回は乗る機会がなかった。

というわけで、函館に到着。

この後は、函館山で夜景を見る。

ロープウェイの営業終了ギリギリの時間なので、タクシーで急いで行く。

しかし、なぜかしょっちゅう信号に引っかかる。

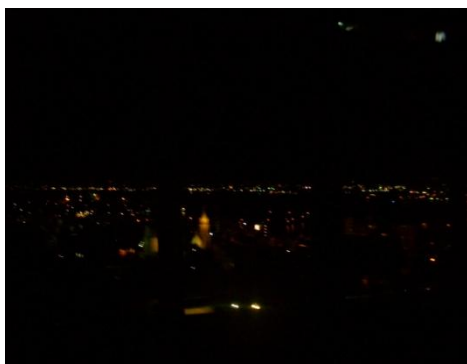
ああもうなんだよお。早くしてくれよ！ (怒)

イライラ度が上昇中↑↑。イライラ～ イライラ～

やっとロープウェイ乗り場に着いた。営業終了まであと 25 分だ。

ロープウェイの運賃は往復 1160 円。高い・・・

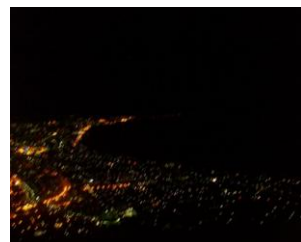
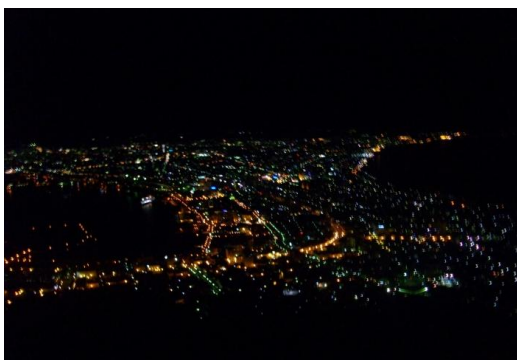
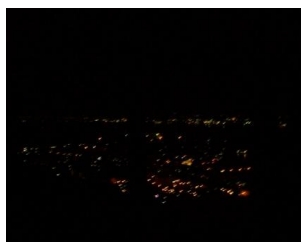
しかし、函館山から見る夜景は、1160 円くらい払ってもいいくらい美しかった。



ロープウェイからの景色

きれい・・・・・・・・・・・・・・・・

頂上からの景色はもっとキレイだった。



ああ、なんて幻想的なんだ・・・夢の中にいるようだ。とても美しい・・・

もし彼女ができたら _____ できるかどうかわからないが _____ 寝台特急「カシオペア」にでも乗って函館山に行きたいものだ。

空にはわずかながらに星が見えた。

この美しさは写真ではお伝えできない。一度実際に行かれてみることを強くお勧めする。

最終のロープウェイの時間になったので、地上に戻ることにした。 20分が長く感じたなあ・・・

このロープウェイは傾斜がきつく、正直ちょっと怖かった。

それにしてもカップルだらけだった。男2人のグループは見当たらなかった。

もしかしたら私達は周りから、同性愛と思われていたりして・・・

地上に来たら、まずはホテルに路面電車で移動する。



(翌日の朝に撮影)

車両は初期の東洋VVVFを搭載した車両だった。(東急7600、相鉄5000のような音をたてます。ちなみに、後者は既に引退しています。前者もそろそろ引退するかもしれません。)

今回泊まるのは、「スーパーホテル函館」。

無料朝食があったり、現金精算を機械で行ったり、24時以降は完全にフロントが閉まるという、かなり特徴的なホテルです。

今回もツインで宿泊。



部屋 (奥にいるのは粟田君)

夕食をまだ食べてないので、コンビニで弁当を買って食べた。

その後は「ピカルの定理」を見たりして、結局寝たのは2時ごろだった。

最近、この番組の「ビバリとレイ」にはまってしまった。

まだ風呂は行ってないな・・・。明日は早く起きて朝風呂しよう。

だが、明日は、本当に波乱だった。

3章 3日目・また青森へ

函館 06 : 53 → (江差線 普通) → 木古内 07 : 54

木古内 08 : 03 → (特急スーパー白鳥) → 蟹田 08 : 50

蟹田 08 : 57 → (津軽線 普通) → 青森 09 : 43

メモリアルシップ八甲田丸に行き、館内見学&八甲田丸カレーを食べる

青森 11 : 59 → (青い森鉄道線 普通) → 野辺地 12 : 42

野辺地 12 : 56 → (大湊線 普通) → 大湊 13 : 57

大湊 14 : 05 → (快速しもきた) → 八戸 15 : 55

八戸 16 : 10 → (青い森鉄道線 普通) → 青森 17 : 42

青森 18 : 25 → (寝台特急あけぼの 上野行き) → 上野 06 : 58

となるはずだった

朝、目が覚めた

今何時だろー

09時43分

.....

.....寝坊しちゃった！

朝風呂もできねええええええええ。

というわけで、予定変更。

函館 11 : 19 発の特急白鳥で木古内 (11 : 59 着) まで行き、そこから後続のスーパー白鳥に乗って、蟹田まで行き (18 きっぷの特例の対象とさせるため、わざわざ乗り換えた)、そこから普通列車で青森まで行くこととした。

ちなみに、寝坊して起きた時刻がもう少し早ければ、無料朝食を食べることができた。チクショー~~~~

遅起きは1文の得もない (笑)

とりあえず、撮影でもしようか



函館市電



函館駅



1番奥の183系は珍しいとかち色である。この車両はおそらく引退済みである。



今回乗る特急白鳥（木古内にて撮影）



特急北斗が入線してきた。

ハイデッカー車

駅の弁当屋で、かに飯折（白鳥で食べる）といくら弁当（あけぼので食べる）とお土産に生キャラメル購入し、それから特急白鳥に乗った。

白鳥は黄色の485系だった。

発車時刻が近づくと、「旅立ちの鐘」が流れる。

いい発車メロディーだ。うっとりしてしまう。

発車後すぐ、車内チャイム「主よ、人の喜びよ」が流れる。実際に聞くのは初めてだ。このチャイムはいい音だ。

昨日もこの区間を普通列車で通ったが、その時は夜でなにも見えなかったので、初めて、渡島半島を縦断するこの区間の風景をちゃんと見る事となった。

（進行方向の）右手には山や草原が見え、左手には海が見えた。

途中、スーパー白鳥との行き違いで止まった。

私：「おい栗田、あれ785系じゃないか？窓の周りが黒いぞ」

栗田：「あ、マジだ。ラッキー」

運よく、785系を見れた。（写真は次ページに掲載）

海が見えなくなり、しばらくすると木古内駅に着いた。

今回乗った黄色の485系はリニューアル編成で、内装は最近の特急車両とよく似ていた。だが、乗り心地はそこまで良くないうえ、トイレもやや汚かった。



かに飯折はかにの量が多く、おいしかった。茹でたのをそのまま食べるほうがおいしいけどな。

木古内からは後続のスーパー白鳥にのり、再び本州へ戻る。

北海道に滞在したのはわずか14時間ほどだった・・・いつかは1週間くらい北海道旅行をしてみたいものだ。

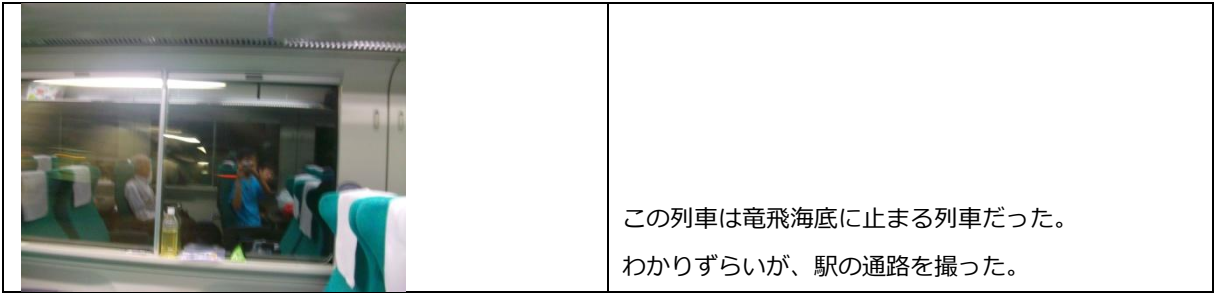


私の斜め後ろには関西弁をしゃべるおばさん2人がいた。

おばさんA：「次が青函トンネルやなあ」

B：「あ、“せいかんとんねるにはいました” やて」

A：「(電光掲示板の、川で人が溺れたというニュースを見て) あれだけ雨が降ったからそりゃ溺れるやわな」
関西人らしくうるさい人達だった。



本州に上陸し、しばらくすると蟹田に着いた。

隣の線路には貨物列車が止まっていた。

すると、いきなり貨物列車が後ろに動き始めた・・・と思いきやすぐにとまった。今のはなんだったんだ？

少したつと、ガシヤンガシヤンという大きな音(連結器の音)を立て、北海道方面へ走り去った。

連結器の音を聞いて、「機関車に引っ張られているという点では客車と貨車は同じだから、今日乗るあけぼのもあんなに揺れるのかなあ・・・」と思ったりしていた。



発車時刻ギリギリになって、青森行き(701系)が進入してきた。

この車両は未更新車で、粟田は喜んでいた。

昨日通った時は暗くてよくわからなかったが、ここらへんも海に近いところだった。

スマホで青森駅周辺に銭湯がないか調べたところ、新青森にしかないことが判明。

メモリアルシップ八甲田丸はあきらめよう・・・



青い森鉄道の701系には、このようなラッピングが施されている。
 メモリアルシップ八甲田丸には行けなかったが、写真だけは撮れた。



メモリアルシップ八甲田丸とは・・・

昔、青函連絡船として活躍していた八甲田丸を、博物館に改造したものです。
 船らしく海に浮かんだ状態で保存されていて、客室、レストラン（実際の営業もあります）などの見学ができます。
 この船は現役時代には鉄道車両の輸送もしていて、実物の鉄道車両の展示もあります。

八甲田丸の近くにあったレストランで、ホタテとイカのカレーを食べた。

あっ、また写真とるの忘れた！

まあいい、言葉だけでこのカレーを伝えよう。

ルーは薄い茶色で、あまりスパイスは効いてなく、クリーミーな感じで、魚介類とよくあっておいしかった。

これでどうだ。わかりましたか？

ちょうど特急つがるが来ていたので、特急つがるに一区間だけ乗ることに。（18 きっぷでは特急は使えないので、後で青森・新青森間の運賃を払った。なお、この区間に限り、乗車券のみで特急に乗れるという特例がある。）



E 751 系の特急つがる

この車両に乗るのは初めてだ。

この E 751 系は 2 0 0 0 年に特急「スーパーはつかり」用として投入され、東北新幹線八戸延伸と同時に「スーパーはつかり」が廃止となったため、特急「つがる」に使われるようになり、現在に至っています。この車両は「フレッシュひたち」で使われる E 653 系がモチーフとなっていて、外装もよく見ると E 653 系そっくりですね。

数分間だけ贅沢な気分になり、新青森で降りた。

新青森到着前に「しらかみ用チャイム」が聞こえた。なぜ E 751 系に搭載しているのだろうと思っていたら、誰かの携帯の着信音だった（笑）

新青森駅周辺はあまり建物がなく、栄えていなかった。新青森は在来線と新幹線の接続するだけの場所なんだな、とちょっと小バカにしてみる。

新幹線の線路はすでに函館方面に向けて 600M くらい延びていた。北海道新幹線の開業工事は着々と進んでいるようだ。

だが正直言って、開業しないでほしい。開業したら「北斗星」、「カシオペア」、「はまなす」はどうなってしまうのだろうか？

第一、新幹線は特急券が高いから、お金のない人には非常に痛い。

銭湯で汗を流した後、青森行き普通列車の時間にギリギリだったので、走って新青森駅に行くことにした。あ～汗がどんどん出る。

せっかく汗を流したばかりなのになあ。急いでいたため、リュックのチャックが開きっぱなしで、列車内でお土産とかを落としてしまった。

いや、ズボンのチャックが開いてるよりは 1 0 0 倍マシだ（笑）

青森駅に戻ると、時刻は 1 7 時 4 0 分頃。「あけぼの」の入線を 3 番線で 2 0 分くらい待った。

「まもなく、3 番線に、列車が、到着いたします。黄色い線まで、お下がりください。」

電光掲示板に、「列車がまいります」の文字が現れる。

D E 10 に引かれた 2 4 系客車が近づいてくる。

ああ、ついに乗るんだな。

いつもはただ見るだけ。

しかし、今回は違う。

実際に、乗車するのである。

4章 ついに、あけぼの乗車！

あけぼのが入線してくるまでは、なんだかあまり実感がなかった。

しかし、いざ入線してくると、ワクワクしてくる。

ああ、これが我々が待ち望んでいた「あけぼの」！

ついに念願の乗車を果たせる！うれしい限りだ。



今回は、1番安いゴロンとシートに乗車。私の指定された寝台は、8号車5番の上段だった。



8号車 ゴロンとシートに乗車



ゴロンとシートは寝ころぶことはできるが、
シーツやまくらなどは一切ない

ゴロンとシート上段から通路側を見る	ゴロンとシート	はしご そして魔の手（笑） 荷物置き場が上側に見える

発車まで、写真を撮ろうか。

	B寝台車 出入口	ソロ（下段）
ソロ（上段）	この日の8号車はオハネフ25 201 電源供給車 ディーゼル音が非常にうるさい。	
	五能線キハ40 とHB-300系	



さあ、まもなく出発だ！

18時25分、発車メロディー「water crown」が流れると、ドアが閉まり、やや強い揺れとともに発車。

少しすると、車内チャイム「ハイケンスのセレデーナ」が流れ、車内放送が始まる。

ブルートレインに乗ったらまずこのチャイムを聞きたいよネ！

空は次第に暗くなり、夜行列車らしくなっていく。

ブルートレインなんて何年ぶりだろう？

お世辞に決して良くない乗り心地、古くなってきた24系客車、列車の中にベッドがあるという非日常的な光景・・・

ああ旅情感があるねえ。

以下、栗田との会話をお楽しみください。

この際言ってしまうのですが、栗田の本名は、栗田です。

以前私が、“栗田”を間違えて“栗田”と書いてしまったことから栗田という仮名を思いつきました（笑）

栗田：「俺、今の名字いやなんだけど〜。」

私：「え、なんで」

栗田：「だってさ、“くりた”ってダサくない？」

私：「じゃあ“栗”の“木”の部分“米”に変えて“栗田”に改名したらどうだ？」

栗田という仮名はこの時思いついた。

栗田：「ねえマッチー（私のあだ名）、今日眠れる？」

私：「たぶん眠れる。旅行は疲れるよ。」

栗田：「俺興奮して寝られそうにないよ」

私：「ねえ夕食にしよう」

栗田：「いいよ」

私：「あ！ 割り箸がないから食べれない！ 新青森で銭湯に入った後落っこしたかな？ 栗田、割り箸はないか？」

栗田：「え、箸がないの？ ブッ。くくわはははははは（大爆笑）」

笑いごとじゃないんだ

私：「いくら弁当の消費期限が20時までだからそろそろヤバイ。」

栗田：「じゃあね、（ブッ）俺が食い終わったらね、（ブッ はは）俺の割り箸を使えば？（はははははは）」

笑いごとじゃないんだ

20分後、ようやく栗田の食事が終わり、栗田の割り箸を洗ったうえで再使用した。

ああ、やっと食えるう〜

いくらが若干粘り気が強くなっていて、食中毒の面でかなり危なそうだった・・・

でもおいしかった。あのプチプチがいいよね。

今回、割り箸がいかに重要な存在であるかを思い知らされた。私は割り箸をナメていた（笑）（笑）

私：「僕さ、木下秀吉・・・」

この会話は小学生には不適切なので書かないでおこう

私：「僕はアニメには興味あるけど、たった5作品しかみたことない。それでも僕はオタクなの？」

栗田：「あのね、アニメを1作品だけでも見てしまっただけでももうオタクなんだよ」

私：「そんなことはないよ！だって栗田は20作品くらい知っているでしょ？僕は栗田に比べてレベルが低いよ！」

栗田：「いや、君はもうオタクなのだよ。素直に認めなさい（ｷｯ）」

私：「いや、そんなわけない。ああそうだ、サッカー部のM田にメールで聞いてみよう。あの子も栗田くらいオタクだからな。」

（メール送信）

（返信が来た）

M田からのメール：「イエス。君はアニオタだよ」

うわああああああああん（泣）

栗田：「素直に認めるんだな！」

ちなみに、私は今でもなお自分がオタクだと思っていない。

こんな感じで、いろいろと会話をした後、2人とも眠くなってきたので、寝ることにした。

だが、客車はただ機関車に引っ張られるだけなのだから乗り心地は良くなく、ときどき起こされてしまった。

停車時・発車時の揺れがかなりひどかった。

停車寸前にブレーキを完全に緩めて、無衝動で列車を止めるという神業があり、できれば寝台特急の運転士さんにはそれをやっていただきたいものだが、やはり難しいのだろうか。



長岡で運転停車・機関車交換。時刻は深夜2時過ぎ

ああ、空が明るくなってきたな。今はどこだろうか。

車窓を見ると、住宅が多くあり、線路は複線になっているのが確認できた。

時刻は5時過ぎ。上野到着の06:58にはまだ1時間半以上ある。

私は、今は高崎周辺を走行中なのだろう、と推測した。

その推測はあたっていて、高崎問屋町駅のホームが見えた。ここには何回か発車メロディーを聞きに来たこと

があるので、見慣れている。フルで鳴ったのは1番線は1回だけ、2番線も1回だけだった。
高崎に停車し、何人かの乗客が降りた。

列車は上尾駅を通過した。

列車が時間通り動いている旨と、まもな大宮に着く旨と、今日の日付が「ハイケンスのセレデーナ」の後に放送された。

そして、大宮に着いた。

東京都はもう目の前である。もっとも、栗田は千葉県民なのだが・・・

京浜東北線や高崎・宇都宮線のE231系など、見慣れた車両が見えてくる。

『寝台特急あけぼの』の旅を書いた佐藤君の場合、旅行の最初に乗ったため、「混んでる列車に乗っている通勤客とは違うのだよ！」という優越感を持っていられるが、私達の場合は「ああ、現実に戻されてしまうのか・・・もっと旅行したいなあ」と感傷に浸るだけであった。



尾久の車両センターが見えてきた。上野まであと5、6分だ。

「ご乗車ありがとうございました。まもなく終点の上野です。13番線の到着です。お忘れ物落し物のなさいませんようご注意ください。え、上野からの、連絡列車をご案内いたします。常磐線特急・・・(中略)・・・山手線外回り、東京、品川方面は、3番線・・・京浜東北線、南行電車・・・ご利用のお客様は、山手線・京浜東北線で東京までご乗車になり・・・新大阪行きは新幹線ホーム・・・まもなく終点上野です。お忘れ物なさいませんよう、今一度おたしかめください。今日は、寝台特急あけぼの号をご利用いただきまして、ありがとうございました。またのご利用をお待ちしております。」

「ハイケンスのセレデーナ」が流れる

最後の「ハイケンスのセレデーナ」は、旅の終わりを私達に告げるとともに、・・・・・・

私達を“まだ宿題が終わっていない”という現実に引き戻したのであった（苦笑）

完



(一番右下の写真) ふるさとの 訛なつかし 停車場の 人ごみの中に そを聴きにゆく 石川 啄木

※あけぼのの牽引機関車は、長岡まではE F 8 1、長岡からはE F 6 4です。

アフター

中学生同士での長旅は、今回が初めてでした。

今回は非常にいい思い出になりました。

栗田と2人でいろいろ話したり。

日本海を眺めたり。

函館山からの夜景・・・

寝坊したことの反省・・・ もう少し睡眠時間を長く確保しないと

ブルートレイン・・・

いつか、また栗田と北海道に1週間くらい旅行したいな。今度はT-Y-O君も一緒に連れて。